

## 平成 29 年度 学校評価の分析ならびに今後に向けての改善点

### 1 平成 29 年度 学校評価の分析

#### 《教職員の学校評価より》

① A 評価が高かったのは、【11】

→情報委員会では、必要に応じてブログで手軽に情報発信ができるよう、今年度から各部や各学部単位で担当を決めブログ更新に力を入れた。学部通信や学校新聞は、こまめに発行したり速報的にタイムリーに発信したりしている。

② C と D で 8 人と多かったのが、【5】【8】【16】

→【5】学部～

【8】保健部・事務室～

【16】進路指導部～

③ A 評価が低めで、C が 5 人と多めになったのは【9】【12】

→【9】保健部～

【12】各学部、保健部～

#### 《保護者の学校評価より》

① A 評価が 5 割以上だったのは、【2】【6】【13】【14】

② 「E：わからない」が比較的多かったのは、【9】【10】

→保護者に見えにくい、実感しにくい。

### 2 今後に向けての改善点

昨年度学校評価が分かりやすくなったとの言葉を学校評議員のみなさまよりいただき、平成 29 年度もわかりやすい学校評価アンケートをめざしました。

昨年度のご助言「教員は評価項目を意識して取り組む。教員がこれらの項目を意識することによって、その姿勢が保護者に伝わり、今まで『わからない』という回答もやがては無くなってくる。」の実現をめざしています。

したがって、H29 年度も H28 年度と同様に、質問項目を教職員には 17 項目、保護者には 14 項目と学校生活の充実度を聞く項目と記述（高等部生徒には学校生活の満足・充実度を聞くものと記述という形）にしました。

結果、「充実度」を尋ねる各問いについては、教職員と保護者ともに A（そう思う）・B（どちらかと言えばそう思う）と肯定的な評価が多数を占めてはいます。

しかし、少数ながら、C（どちらかと言えばそう思わない）・D（そう思わない）の評価もあり、また、保護者への「学校は充実していますか。」の質問に対して、「いいえ」と回答し、「教員の専門性」を指摘する割合が高いことは、とても気がかりです。

このことをふまえ、私たちは、子どもたち一人一人の「学び」が定着する好機を見逃すことのないようきめ細かな指導を通して、子どもたちの「できた・わかった」が増える教育活動を進め、平成 30 年度には、より高い評価につながるよう改善を図っていきます。